

わがまち紹介



茨城町

三世代が共に輝く元気交流空間
夢と希望を未来へつなぐまち

まちづくりのビジョンをつくり いまできることを実行

2007年4月に町長に就任し、これまで4期16年間にわたり町政運営を担い、2023年4月に5期目がスタートしました。

1期目にまず取り組んだのは、財政の健全化です。新規ハード事業を抑え、ソフト事業へ注力しました。

2期目からは子どもたちの人づくり教育と基幹産業である農業の振興を政策の柱に、職員の資質能力の向上や福祉政策、環境政策、インフラ整備などを重要政策に位置づけながら、町の資源と特性を活かした独自のまちづくりを進めてきました。

しかし、人口減少や少子高齢化、多発する大規模自然災害など、新たな課題が顕在化し、町を取り巻く情勢は複雑・多様化しています。

本町では、これらの課題に向き合い、迅速かつ適切な対応を図るため、2023年3月に「茨城町第6次総合計画後期基本計画」を策定しました。町の将来像であ

る「三世代が共に輝く元気交流空間 夢と希望を未来へつなぐまち」の実現のためにさまざまな施策に取り組んでいます。

時代が求める最良の教育を

まちづくりの柱の一つとして、教育はいつの時代にも大切なテーマであり、先送りはできません。これからの時代に求められる最良の教育を提供しようと、子どもたちの学びの環境づくりに力を入れてきました。

2期目には、少子化による児童・生徒数の減少に対応するために学校の統廃合を行い、従来の中学校3校、小学校9校をそれぞれ2校、4校にしました。また、校舎の新築・増改築を行い、体育館もあわせて耐震化を行いました。校舎のエアコンも県内で先んじて導入しました。

教育のデジタル化においても、いち早く取り組んできたことから、コロナ禍のオンライン授業にもスムーズに移行することができました。

また、中学生を対象に北海道の雄大な自然を体験し



茨城町



株式会社筑波銀行
県庁支店長
佐藤 光



IBARAKI
TOWN



茨城町長
小林 宣夫氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県茨城町です。筑波銀行県庁支店長 佐藤 光が茨城町長 小林 宣夫氏にお話を伺いました。

て一生の思い出にしてもらおうと、「北海道自然体験学習」を実施しています。行きは大洗からのフェリー、帰りは飛行機という行程もあり、人気の高い課外授業となっています。

農業の活性化を推進

農業も本町のまちづくりの柱の一つです。基幹産業であり、食料安全保障や国土保全の観点なども踏まえて、重要施策として取り組んできました。引き続き、特色ある農業を目指し、その振興に努めていきます。

本町の主な農産物は、米を中心にメロン、いちご、トマトなどです。農業は、大規模化を支援する方向性が一般的ですが、農業従事者の確保など将来のことも考え、国の補助対象になっていない小規模農業者にも町独自の補助を行っています。

2011年には、本町の農畜産物のイメージアップや農業の活性化を目的として、農家代表や町商工会、金融機関、JA、大型ショッピングモールなど各種関係機関の方々と構成する茨城町農畜産物「きらり」実践協議会を設立しました。今後も安全・安心な農畜産物をより多くの皆様にご賞味いただけるようブランド力の向上を目指していきます。

2015年には「茨城町農業公社」を設立し、離農する方や規模縮小したい方の農地を地域の意欲ある農業者等に貸し、地域の農業を安定的に発展させることを目的とした農地中間管理事業のほか、町外からの就農希望者の移住・定住のため空き家・農地の斡旋などを行う新規就農者受入研修事業、耕畜連携を念頭に水田で飼料用米を栽培して畜産農家に提供する稲ホークロップサイレージ事業などを行っています。

地域資源のブランド化

本町の認知度やイメージアップ、そして地場産業の振興を目的に、町内の優れた地域資源を活用した商品などのブランド化を進めています。

2017年には茨城町農業公社の取り組みにより、「飯沼栗」が農林水産省の「^{いい}地理的表示 (GI) 保護制度」に栗としては全国で初めて登録を果たし、知名度が一気に上がりました。

2021年にはブランド認証制度「茨城町特産品ブランドいっぴん」を創設しました。これまでに、梅里豚(株式会社広沢ファーム)、しじみラーメン(大



「茨城町特産品ブランドいっぴん」
認証マーク

黒家)、飯沼栗(下飯沼栗生産販売組合)、愛ちゃんメロン(JA水戸茨城町メロン部会こだわりメロン研究部)の4品をブランド認証し、町の特産品ブランドとして広告媒体・メディアへの掲載、イベント等を通じたPRや販路拡大支援を行っています。

さらに、町内産の農産物を使った加工品づくりにも取り組んでいます。これまでに、さつまいも「紅まさり」を使用した本格芋焼酎「紅ひぬま」、飯沼栗を使用した「万羊羹」があり、さらに昨年には、干し芋を使用したお菓子「ガレットサンド」「ほしいものパイ包み」が新たに誕生し、町の新たな土産物として定着することを期待しています。

涸沼を観光のシンボルに

町のシンボルである涸沼は、関東唯一の汽水湖で、2015年に「ラムサール条約」の登録湿地となり、国際的にもその素晴らしさが認められています。

現在、本町では涸沼を観光振興の中心と位置づけ、周辺施設や道路などの整備を行っています。核となる「涸沼自然公園」は、2021年9月策定の「涸沼自然公園魅力アップ計画」にもとづいて整備が進んでいます。

2023年4月には公園内の「わいわい広場」に新たな複合遊具が設置され、リニューアルオープンしました。

また、イベントとして2010年から「ひぬまあじさいまつり」を開催しています。6月中旬から7月中旬に約30種1万株のあじさいが楽しめ、県内外から多くの観光客が訪れています。

さらに、涸沼湖畔の下石崎地内では環境省が主体となり「涸沼水鳥・湿地センター(仮称)」の整備が進められ、2024年秋頃のオープンを予定しています。

オープン後は、町が運営を行い、涸沼の豊かな生態系や生息する生きもの、伝統漁業など涸沼に関する学習のほか、自然観察会や漁業体験事業を行うなど、学習活動施設として活用し、隣接する涸沼自然公園とタイアップして観光客の誘致に努めたいと考えています。

涸沼周辺では美しい景観を眺めながらキャンプも楽しめます。涸沼自然公園内のキャンプ場は2022年度から通年開園を実施しており、オートキャンプも楽しむことができます。

また、少し離れた涸沼湖畔には、夕日が沈む時間帯に見る涸沼と筑波山が美しいと評判の「親沢公園キャンプ場」、釣りやキャンプの両方が楽しめる「広浦公園キャンプ場」などがあります。

そのほか、涸沼を活用したサイクルツーリズムの推進にも取り組んでいます。気軽に休憩できるサイクルサポートスポットの設置や、涸沼自然公園内の駐車場を舗装整備するとともに、レンタサイクルを活用し、サイクリング拠点として利用しやすい環境整備を図っていく予定です。

将来的には近隣の大洗町や笠間市などと連携して県央地区の広域自転車道を実現できれば素晴らしいことだと考えています。



茨城町のシンボル「酒沼」



「(仮称)新たな文化的施設」の鳥瞰イメージ

町民の「憩いの場」づくり

現在、町民の文化・芸術の振興および地域交流の拠点として「(仮称)茨城町新たな文化的施設」の整備計画が進行しており、2025年までに建物が完成する予定です。

また、本施設を町民にとって使いやすく魅力的な施設にするため、本町に関わりのある幅広い世代の方々や地元の高校生を交えてワークショップを実施し、お寄せいただいたご意見や、これまでの検討の成果をもとに、施設の管理運営に関する具体的指針となる管理運営計画を定めました。

今後は、本計画のもと、文化芸術の振興だけではなく、町の活性化や賑わいを創出するため、様々な自主的文化事業を企画するとともに、ワークショップでいただいたアイデア等を十分に活かしながら、本施設の設置目的に寄与する事業を実施します。

建設予定地は、町役場をはじめ、総合福祉センターや子育て支援センター、図書館などが集積する町の中心部です。文化施設としてはもちろん、役場などの用事のついでに気軽に立ち寄って交流できる、子どもから高齢者までがほっと一息つける「憩いの場」にしたいと考えています。

この施設の完成により、町の将来像「三世代が共に輝く元気交流空間 夢と希望を未来へつなぐまち」の実現のための中核的なエリアになることを期待しています。

少子化・人口減少対策

地方は人口減少や少子高齢化の急速な進行により、さまざまな影響を受けています。各分野で後継者不足や担い手不足などもあり、経済や産業活動の縮小、文化の伝承が途絶えるなど、かつて地方が有していた多様性や活力の低下が顕著になっています。

そのため、人口減少を食い止めることは最重要課題であり、本町では子どもを安心して生み育てることができ環境づくりに取り組んでいます。

その一環として、子育て世帯の経済的負担の軽減を

図るため、2024年度以降に小学校へ入学する児童に対し、ランドセルを贈呈する新たな事業を始めました。

また、医療福祉費支給制度(マル福)は、0歳から6歳(未就学児)の医療費を外来・入院ともに全額無料としました。

企業誘致については、2023年6月、茨城中央工業団地に化粧品の原料を製造する「コボ プロダクツ アジア パシフィック株式会社」の立地が決定しました。また、2023年8月にはEV用リチウムイオン電池を製造する「株式会社 AESC ジャパン」の第一工場が竣工しました。引き続き、茨城県と連携を図りながら、企業誘致を推進していきます。

移住促進策としては、町内に転入し住宅を新築・購入する若者世帯や子育て世帯に対する補助や、結婚新生活を支援するための補助を実施する予定です。



ランドセル見本展示会の様子

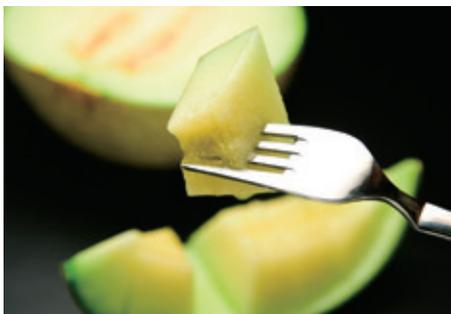
筑波銀行に期待すること

地域の再生のために官民の協力は欠かせません。筑波銀行さんにも地域の金融機関として協力をお願いしたい。町内の中小企業への経営支援をはじめ、銀行の持っている知恵や情報などを地域活性化のために活用していただければと考えています。これからも将来に向けたまちづくりのために、お互いに情報を共有し、ともに課題解決を図っていけることを期待しています。

(取材日:2024年1月29日)

わがまちの 茨城町 ふるさと納税

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



メロン



潤沼のしじみ



干し芋



飯沼栗



ペットシート



常陸牛ハンバーグ

茨城町の魅力あふれるふるさと納税

茨城町は、ラムサール条約登録湿地に指定された「潤沼」を有する自然豊かな町です。その自然豊かな町で生産された農畜水産物を中心にさまざまな特産品が生み出されています。

町では、そんな特産品を多くの方に知っていただくことを目的に新たな返礼品の発掘や広報活動に力を入れております。

町の返礼品は、恵まれた自然と生産者のたゆまぬ努力によって生み出される逸品が数多くあります。ぜひ、茨城町へのふるさと納税にご協力をお願いいたします。



寄附金の活用方法

ふるさと納税を通して、寄附いただきました寄附金に関しては、さまざまな事業で活用させていただいております。

【寄附金の使い道】

- 水と緑の保全などの環境に関する事業
- 人材育成に関する事業
- 伝統文化の継承や文化財保護に関する事業
- スポーツの振興や健康増進に関する事業
- 農業振興や観光などの地場産業に関する事業
- 住民の福祉に関する事業
- その他目的達成のため町長が必要と認める事業

寄附金の活用事業

- ▼ 運動公園
テニスコート整備事業



- ▲ 小学校新入学祝い品
贈呈事業

茨城町のふるさと納税に関してはこちら

